

一人もとりにぼしのない 不登校への支援体制を

山下 律子 議員



【問】 適応指導教室に来る人数と、そこにも来られない人の内訳は。

【教育長】 平成20年度は、適応指導教室通級は6人、来られない人は31人。

【問】 来られない子どもが多い。専門家が個別に家庭訪問して相談にのっている日進市のように、個別支援を行えないか。

【教育長】 個別訪問はしていないが、電話等で相談活動をすすめている。

【問】 「適応指導教室」という名称を「教育支援センター」と改めては。

【教育長】 デリケートな心情の子ども、親が名称で拒否感を持ためようと考えていかなければと思う。

若年性認知症への支援を

【問】 患者数は。

【福祉部長】 介護認定を受けている65歳未満の認知症の方は14人。

【問】 障がい福祉サービスで支援できないか。

【福祉部長】 精神障害者

保健福祉手帳の申請をしなくてもえば対応できる。

【問】 一度で対応できる相談窓口の一本化を。

【福祉部長】 一本化はすくには難しい。窓口で積極的に「この手続きはお済みですか」と案内する。



若年性認知症の相談窓口

障がい者雇用の推進を

【問】 町役場の障がい者雇用は法定雇用率の2.1%を守っているか。

【企画部長】 平成21年度は17%だった。

【問】 身体だけでなく、知的・精神障がい者の雇用もすすめるべきでは。

【企画部長】 これからの研究課題と考えている。

総合体育館アリーナの夜間延長 定休日営業を

近藤 鑑治 議員



【問】 総合体育館アリーナの利用状況は。

【教育部長】 4月から9月末、半年の利用率は、81.4%と伸びている。特に高い曜日は土・日曜日。

時間帯別は、夜間の利用率が高い。昼間の時間帯で特に水・金曜日15～18時の利用率が低い。

【問】 低いエリアの利用促進策はあるか。

【教育部長】 指定管理者の自主事業で「わくわく子ども体操塾」を水・木・金曜日の15～18時の時間帯で実施している。

【問】 総合体育館アリーナ夜間利用延長（22時まで）及び、定休日（火）を営業する考えは。



昼間の体育館アリーナ

【教育部長】 利用者ニーズを踏まえ検討する必要があるが、指定管理者の業務体制、管理、経費面、条例改正等の調整をはかる必要もあり、検討課題とさせてほしい。

ボートの町として 今後の取組は

【問】 今年の反省点は。

【教育部長】 もしもこのことを想定した監視体制や救助活動の強化が必要である。今後はボートの普及と安全対策を研究し、その方策を検討する。

【問】 22年度の新たな取り組みは。

【教育部長】 町民レガッタでの地区対抗レースを検討している。

※このほかに、いこまい館町民ギャラリーの今後、東郷診療所継続に向けての考えについて質問しました。